

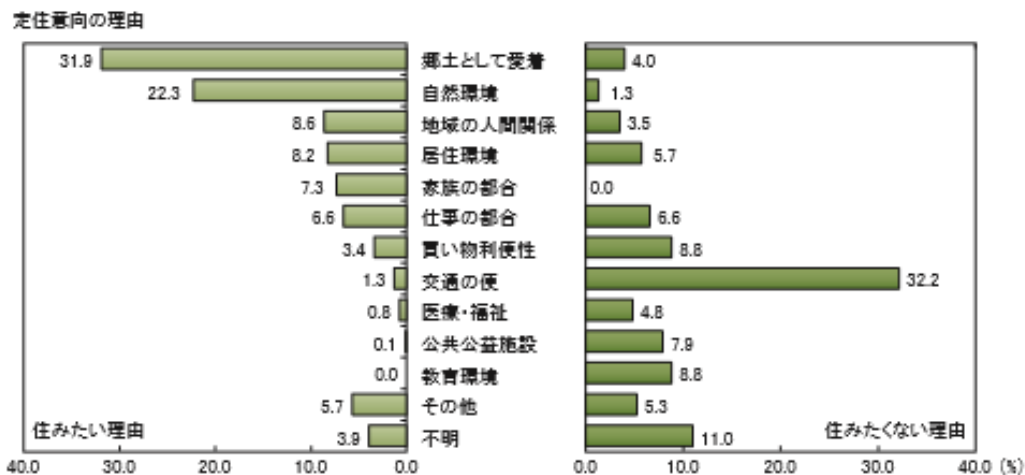
## フットパス in 脇田 ～郷土の愛着に視点をおいて～

### フットパス4C班

4組 9番 須河内 翔  
16番 吉崎 仁  
22番 伊原 茉那  
25番 大山 汐音  
36番 松尾 亜美  
38番 安永 奈那  
39番 吉永 陽子

### 1. 背景

今回私たちが調査した脇田がある宮若市は、平成18年に若宮町と宮田町が合併してできた。宮若市の人口は約2万8861人で、そのうち、老年人口は約9312人ととても高齢化が進んでいる。宮若市の全体人口の中での脇田の人口は、約692人で全体の約2.39%を占めている。また、宮若市役所が行った宮若市への定住意向についてのアンケートによると、下のグラフのような結果が得られた。



宮若市に住みたい理由として最も多かった意見は、『郷土としての愛着があるから』であった。その次に多かったのは、『自然環境がいいから』、『地域の人間関係がいいから』という意見であった。住みたくない理由として最も多かった意見は、『交通の便が悪いから』。その次は、『買物利便性がない』、『教育環境が悪いから』という意見が多かった。宮若市に住みたい理由1位でもあった『郷土としての愛着があるから』という意見からも分かるように、宮若市に長年在住している人が多い。だからこそ、今以上に地域の事を知り、もっと魅力に気付いてほしい。そして、語り継いでほしいと思う。また、宮若市役所は宮若市の課題

の1つとして『協働のまちづくりと地域コミュニティの確立』を挙げている。そのため、市民が積極的にまちづくりを行う必要がある。しかし、脇田は、観光資源や自然はたくさんあるが、人口が少なく、観光をメインとする町にしては活気が少ない。だから、脇田の環境や自然を最大限に生かしたフットパスコースを作り、そのコースを歩いてもらうことで、地域の方々に脇田の良さを再認識してもらい、脇田のことをあまり知らない人にも脇田の魅力を広め、興味をもってもらい、観光客を増やしていく。そうすることにより、今よりさらに町を活性化させ、交流人口を増やすことが求められている。

## 2. 現状

実際に8月のフィールドワークで現地を歩いてみると、緑豊かな自然に囲まれているのかな雰囲気を楽しみながら歩くことができ、とても雰囲気の良い場所だと感じた。また、写真を見るだけではうまく伝わらなかったり、実際に歩いてみないと分からないような、視覚・聴覚で楽しめる場所がたくさんあった。のんびり散歩がてらに歩けるこのコースのなかに、四季折々の草花が咲いているのも1つの魅力であり、季節によって咲く草花の種類が違うため、いつ訪れても楽しむことができる。『ドリームホープ若宮』で働く人のほとんどは地元の方ばかりで、とても明るく話しかけてくださった。しかし、働く場も少なく交通の便が悪いせいか、観光客どころか町を歩く人も少ないと感じた。観光名所で有名な温泉街にばかり人が集まっていて、その周辺の場所には人がまばらであったため、そこにも目を向けてほしいと思った。

## 3. 提案

実際にコースを歩いてみたときの現状をふまえて、私たちは、高齢な方や脇田のことをよく知らない人にも分かりやすく、一目で脇田の良さが伝わるようなコースマップを作成し、脇田の魅力を再確認できるフットパスコースを提案する。このコースの目標は、2つある。1つ目は、地域の方々または脇田のことをよく知らない人に脇田の魅力を多く伝え、観光客を増やし商業を発展させることによって町を活気づける。コースのなかには、歴史を感じさせる景観をもつ場所も多くあり、それらに興味をもった人がこのコースを歩くことで、観光客を増やすきっかけにもなる。また、有名な温泉街の周辺のスポットをフットパスコースに入れることで、脇田温泉を目的に訪れた観光客にも気軽に歩いてもらうことができる。2つ目は、コースを歩くなかで出会う人と交流することによって町を活気づける。町中を歩いている人が少ないからこそ、挨拶を交わしたり会話をしたりするなかで、出会う人ひとりひとりとの交流が深くなり、地域の人どうしの繋がりや輪が広がる。これら2つを目標に掲げたフットパスコースを提案することで、結果的に脇田の交流人口を増やすことが最終目標である。そして、地域の方々が積極的に町を歩くようになることで、主体的に活気あふれるまちをつくるきっかけにしたい。また、このコースの最大の魅力は、季節ごとに違う見え方、楽しみ方が多様にあることだ。たとえば、脇田温泉街の各所の温泉施設からの四季折々の眺

めや、俳句の道で見られる季節感漂う俳句などである。そのため、春夏秋冬どの時期に訪れてもそれぞれの季節に応じた楽しみ方がある。これが、ほかのコースでは見られない脇田ならではの魅力であると思う。これらのことから、私たちは老若男女誰もが楽しめるこの脇田のフットパスコースを提案する。

#### 4. フットパスコースの詳細

私たちが考えたフットパスコースは、『宮若市観光協会』からスタートする。ここは、『宮若市まちの駅』の1つとなっていて、<み>どりの里 <や>すらぎの里 <わ>きあいあいの里 <か>んどうの里 をテーマしている。ちなみに、脇田は感動する観光名所が多いということから、<か>んどうの里の地域に含まれている。宮若市の地域情報を提供するだけでなく、夏には『宮若ほたる祭り』を開催したり、元日には『大門松祭り』を開催したりもしている。また、休憩場所としても利用することができる。



大道路沿いをしばらく歩いて行くと、観光スポットとしても有名な脇田温泉街がある。この温泉街には、喜楽荘や桃源郷、楠水閣などといった温泉施設が点在している。喜楽荘には、庭園露天風呂があり、サウナや水風呂などの設備が備わっている。桃源郷の温泉は、美肌効果のあるつるつるした泉質が特徴的である。楠水閣は、昔の民家をイメージした造りになっていて、温泉はもちろん、旬の食材を使用した料理も楽しめる。家族風呂もあるため、家族連れの利用者も多い。また、これらの温泉施設は美しい自然に囲まれていて、春は夜桜、夏は乱舞するホタル、秋は紅葉、冬は雪景色と四季折々の幻想的な景色を堪能することができる。下の写真からも分かるように、夜景もきれいで温泉街を一望できるスポットになっているため、多くの観光客が訪れる。また、開湯は奈良時代のころであり、歌人の大伴旅人も入湯したと言われていたり、江戸時代の「筑前国続風土記」にも温泉名が記載されていたと言われていたほど、歴史の深い場所である。歴史好きな人は、ぜひ1度訪れてみてほしい。脇田といえばこの温泉街を思い浮かべる人も多いだろう。だから、もっと多くの人に知ってもらい、この温泉街をきっかけに、脇田に興味を持ってもらいたい。



脇田温泉街を抜けると、川沿いに約2キロメートルにわたって『俳句の道』が続く。この『俳句の道』は脇田温泉街と並んで、脇田の観光名所としてよく知られている。2キロメートルの散歩道に一定の間隔でおよそ133の立て札が並んでおり、そこには『宮若市全国俳句大会』で入選した俳句が書かれてある。フットパスコースの自然の景色を楽しみながら、俳句の中から見えてくる景色も思い浮かべることで、より道を楽しむことができ、想像力も養える。さまざまな俳句について、観光客どうしが互いにそれぞれの意見を交わし、交流を深めることも期待できる。俳句の書かれている立て札は、1年に1回入れ替えられ、そのたびに新しい俳句がたくさん並ぶため、何度訪れても飽きることなく楽しめる。また、道路沿いには下の写真のように、彼岸花が咲いており、色彩豊かな景色を堪能しながら歩くことができる。



『俳句の道』の途中には、『楽水之径』と呼ばれる片道560メートルの遊歩道があり、自然石を利用した造りを流れる川のせせらぎや、心地よい鳥のさえずりを聞きながらゆったりと歩く。少数ではあるがベンチがあったり、道の途中には、しめ縄を巻いた大きな楠の木が涼しげな影をつくったりしているため、休憩場所に適している。夏には、川遊びを楽しむ親子連れも多く見受けられる。

そして、このフットパスコースのゴール地点は、『ドリームホープ若宮』である。ここは、“新鮮・安い・うまい”をモットーに、地元の新鮮な野菜や果物を販売している。パンやお弁当、農産加工品や草花、民芸品などの種類も数多くあり、店内を見て回るだけでも十分楽しめる場所となっている。また、下の写真からも分かるように、店外の駐車場スペースにも



たくさんのお店が出ている。毎年、2月と9月には感謝祭が開催され、この場所に多くの住民が集まるため大いに賑わう。そのため、ここも交流人口を増やすのに最適なスポットである。自然を楽しみながらフットパスコースを歩いたあとは、旅の終わりにここ『ドリームホープ若宮』でお土産を買って帰るのも良いだろう。



#### 5. 未解決問題

『俳句の道』には、1年に1回、9月頃に俳句の入れ替えの時期があり、句碑が立てられていない時期があるため、時期を考えて訪れるのが良い。コースのなかには狭い道が続いていたり、車通りの多い大道路を歩いたり、川と道の間に柵がなかったりするなど、危険な場所もあるため、安全に十分注意する必要がある。また、階段が続くところもあり高齢者には負担がかかるかもしれない。このフットパスコースを提案することにより、スタート地点までの交通手段が少ない、または、駐車場が足りないなどの問題が生じる恐れがある。そのため、宮若市への定住意向のアンケートで、宮若市に住みたくない理由にも挙げられていた、『交通の便の悪さ』がより目立ってしまう可能性も考えられる。

#### 6. 1年間の実施スケジュール

4月～7月・・・フットパスエリア確定（班員全員）

7月・・・北九州大学の先生の講義（班員全員）

8月～11月・・・コース確定・地域調査（安永、松尾、吉永）

9月・・・フィールドワーク in 脇田（伊原、安永、須河内、吉崎）

11月・・・フィールドワーク in 植木（班員全員）

11月～12月・・・パワーポイント（大山）

12月・・・レポート（伊原）